

牛群検定成績活用シート の使用方法

1. 以下に続く牛群検定成績活用シートNo.1、No.2を「A3」サイズにて印刷して下さい。
2. 色づけしてある「切り取り」の部分のカッターナイフなどで切り抜いて下さい。
3. ラミネート加工などをすれば、汚すことなく何度でも使うことができます。
4. 各シートと成績表の組み合わせは右図にとおりとなります。



牛群検定成績活用シート		
シートNo.	タイトル	用意する検定成績表
No. 1	乳量・乳成分から 牛群を把握しよう	検定成績表（牛群成績）
No. 2	繁殖成績から 牛群を把握しよう	検定成績表（牛群成績）

乳量・乳成分から牛群を把握しよう

搾乳日数

160日～170日で安定していることが大切
長すぎる→繁殖悪い
短かすぎる→分娩の偏り

標準乳量

安定している=飼養管理が安定
産次や季節などの影響を除いた数値
2産、4～6月分娩、搾乳日数120日で換算した値

P/F比

0.8～0.9が目安
0.9以上：濃厚飼料過多、粗飼料不足、アシドーシス傾向
0.8以下：エネルギー不足、ケトーシス傾向

MUN

バルク乳・群平均10～14mg/dl
個体乳 9～16mg/dl

乳タンパク質率 %

		3.2未満	3.2～3.5	3.5以上
MUN mg/dl	14以上	分解性タンパク質過多 糖、でんぷん不足	分解性タンパク質過多	分解性タンパク質過多 糖、でんぷん過多
	10～14	糖、でんぷん不足	適正バランス	糖、でんぷん過多
	10未満	分解性タンパク質不足 糖、でんぷん不足	分解性タンパク質不足	分解性タンパク質不足 糖、でんぷん過多

※分解性タンパク質：ルーメンで分解されるタンパク質
サイレージや大豆粕に多い

85%程度

95～105%

3.6以上
3.3以上
8.8～9.0

200 (20万) 以下

移動 13ヶ月 成績 検定年月日	牛群構成						検定日成績 / 搾乳牛1頭平均										体細胞情報					
	経産牛	搾乳牛	搾乳牛率	搾乳日数	分娩頭数	初産雌	検定乳量	標準乳量	乳量	乳脂率	蛋白質率	無脂固形分率	MUN	P/F比	濃厚飼料給与量	体細胞数平均	搾乳牛頭数比率			乳量損失率	自当り代	
	切り取り																					

先月の成績→
今月の成績→
(検定日まで)

経産牛1頭当たり年間成績					
月	乳量	乳脂率	蛋白質率	無脂固形分率	P/F比
切り取り					

乳量

：泌乳曲線はきれいにピークを示すか
初産牛のピークは2産以上牛の約75% (2産以上牛 40kg→初産30kg)

乳脂率

：泌乳初期の高乳脂率 (4.5%以上) はエネルギー不足による体脂肪導員を表し、肝臓に負担をかけ、ケトーシスの危険性もある

乳蛋白質率

：栄養充足の指標でもあり、80～90日には3.0%以上に回復させることが望ましい

切り取り	
------	--

過去1年間の牛群の成績
我が家の成績は1頭あたり〇〇kgと表現するのは一般的にこの値

1産					2産以上						
21日以下	22日～	50日～	100日～	200日～	300日以上	21日以下	22日～	50日～	100日～	200日～	300日以上

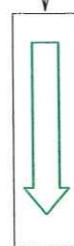
切り取り											
------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

泌乳初期 (49日以下)

泌乳最盛期 (50～99日)

泌乳初期 (49日以下)

泌乳最盛期 (50～99日)



実乳量は産次を重ねるほど高く



補正乳量 (能力) は初産ほど高く



繁殖成績から牛群を把握しよう

繁殖成績が思わしくないときは、乾乳期の管理を見直しましょう。

乾乳から分娩時の管理がスムーズに行くと

疾病や事故がなく、繁殖が良好で、乳量も順調 となり
良いことがたくさんあります。

【乾乳期の飼養管理ポイント】

飼養環境	清潔で乾燥した環境 暑熱対策 換気 十分な運動が可能な施設 餌水が容易に摂取できる
飼養管理	乾乳前期 低栄養だが嗜好性の良い粗飼料を飽食 タンカルを50~100g 給与しカルシウムを蓄積
	乾乳後期 嗜好性が良く、カリの低い粗飼料を飽食 乾乳用配合4kg 給与 ビタミン（特にビタミンE）、ミネラル（特にマグネシウム）を必要量給与 カルシウムを多く含む飼料は注意が必要（搾乳用配合、ルーサン、ビートパルプなど）

J M R
「20」が目標

繁殖成績の指標の一つ
初産牛 80日間
2産以上牛 60日間

を意図的に授精を行わない待機期間として、その期間経過後の日数の平均を示す
1日伸びると1,500円~2,000円の損失と言われる

平均空胎日数

平均空胎日数 + 280日 = 9ヶ月後の
平均分娩間隔

将来の繁殖成績を示す数値
100~120日を目標に授精

乾乳日数

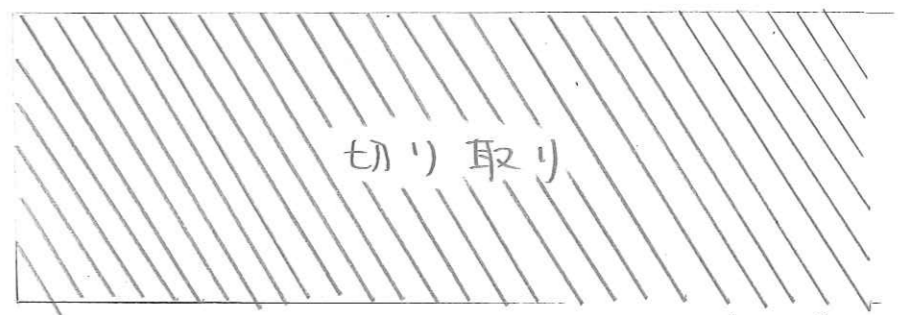
平均60日程度がベスト
40~69日の割合が多く、極端に長かったり短い牛がないことが望ましい
乾乳期間が長い牛は太りすぎや逆に乾乳中にやせないように注意

初回授精日数

繁殖成績向上には特に重要
平均で80日以内にする
ことが望ましい

目標2.0回

授精状況						管理状況（除籍牛を除く）								
授精	肉牛	授精回数	初回授精	未経産牛	経産牛	妊娠	平均	空胎日数	乾乳日数	平均	以下	以上	以下	以上
授精	高配	平均	3回以上	受胎率	開始	開始	開始	開始	開始	開始	開始	開始	開始	開始
率	率	率	率	率	率	率	率	率	率	率	率	率	率	率



今後の分娩予定頭数を確認し、作業計画を立てましょう



分娩間隔

380日~400日
(100日~120日授精)

- 2産が長い場合
初産の食い負け、栄養不足、育成時にフレーム不足で授精していないかを見直し

予定分娩間隔

予定分娩間隔が現在の分娩間隔より短縮されている場合、繁殖管理が良い方向に向かっている

発情は確認できたか？

初産牛は80日、経産牛は60日以降速やかに授精

初回授精が遅い場合は、原因追求・管理の見直しを